

# 新しい在宅医療の確立を目指して

東京都文京区で在宅医療専門クリニックを経営されている武藤先生にお話を伺いました。



枯ホームクリニック 理事長  
武藤 真祐先生

## 安心して老いることのできる 社会の実現のために

日本の医療制度は、少子高齢化や社会保障費の増大、また患者さんと家族の価値観の変化といった構造的な問題を抱えており、大きな変革期を迎えています。

中でも高齢者の医療・福祉は、団塊の世代が平均寿命に達する10~15年後には都市部において大きな問題となるでしょう。日本の年間死亡者数は、ピークの2040年に現在よりも54万人も多い約160万人になると予測され、病院以外で最期を迎える患者さんは確実に増加していきます。人々が安心して老いることのできる社会を構築するためには、

医療従事者と患者さん・家族の人間的な関わりの下、高いレベルで医療を提供できる在宅医療の確立が不可欠です。

今後、先端医療となる在宅医療において、ITは医療の均てん化（全国あまねく標準的な医療の提供）、コミュニケーションに起因するミスやロスの発生抑制、医療過疎地域で働く医療従事者への専門的なサポートといった観点から極めて重要な役割を果たしてくれるはず

## CONTACTセンターが果たす役割

現在の在宅医療が抱える課題のひとつは、いついかなる時も適切な対応ができる体制づくりです。従来、医療従事者が受けるコールには、緊急性を要しないものも多く、電話対応は現場の大きなストレスになっていました。コールの一次受けを行う在宅医療CONTACTセンターはこうした課題を解決し、医療従事者の疲弊を防ぎ、本来の業務に集中できる環境を実現してくれます。CONTACTセンターの皆さんには、在宅医療の質を担う責任感と専門的な知識、そして相手に寄

り沿う対応で、患者さんご家族の満足度向上に貢献していただくことを期待します。そして、CONTACTセンターがより多くの医療機関で活用されるよう、それぞれのクリニックのニーズに合わせてカスタマイズできる仕組みを構築してほしいと思います。また、CONTACTセンターはそれだけで完結するものではなく、電子カルテや在宅支援システムとの機能の連携も今後重要になってくるはず

富士通エフサスの24時間365日対応、人の和、品質の番人といった精神は、私たちの業界が目指すものと多くの点で共通しています。医療と介護の現場に求められるスキルを高めていただき、患者さん本位の医療の実現に貢献されることを期待します。



▲石巻の被災者のお家で医療にあたる武藤先生